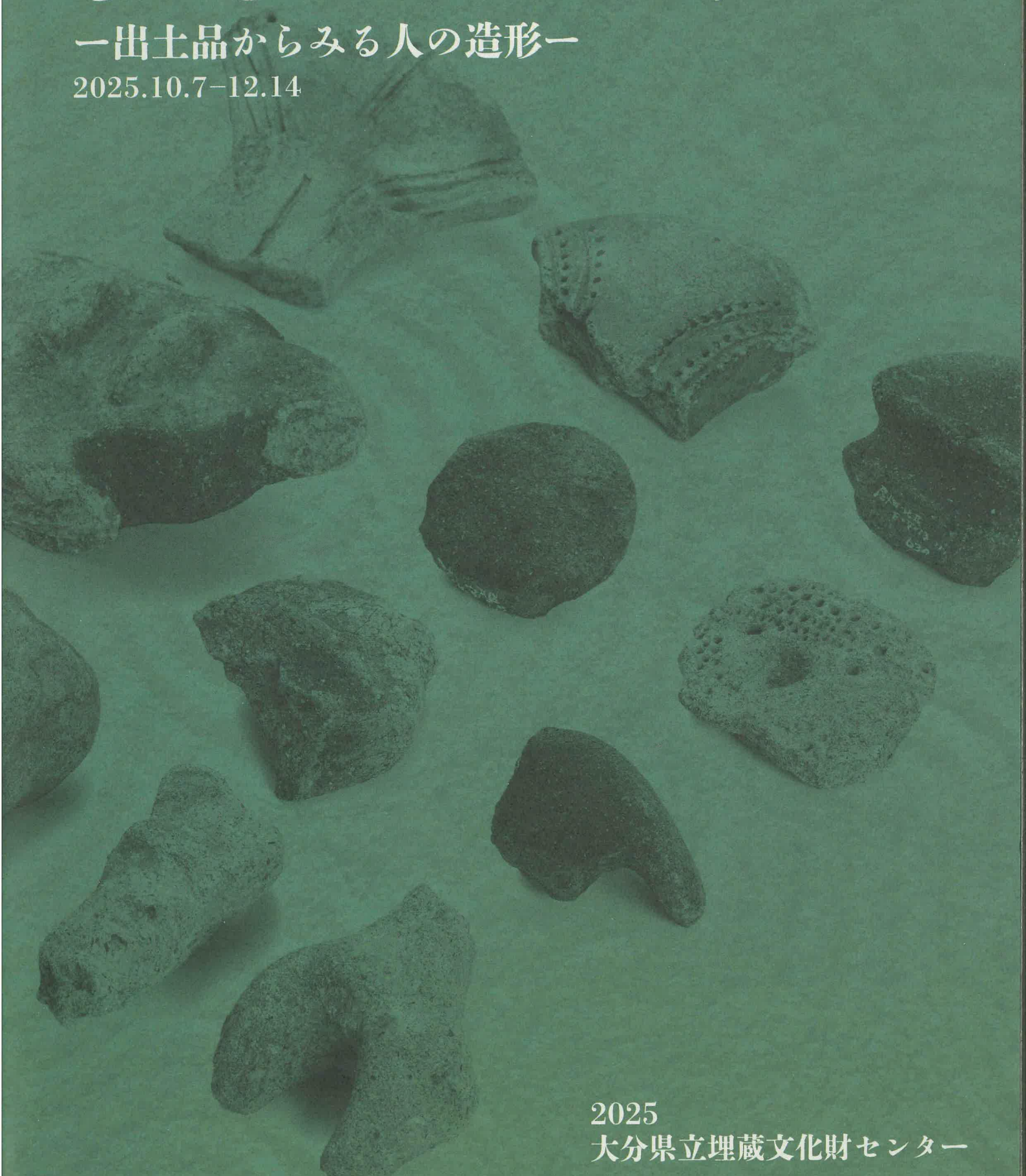


解説資料集 令和7年度企画展 デジタル考古学Ⅱ

ひとのかたち

—出土品からみる人の造形—

2025.10.7-12.14



2025
大分県立埋蔵文化財センター

目次

はじめに	1
第1章 いのるひと	4
第2章 まつりとひとのかたち	8
第3章 ひとをうつす	12
第4章 よそおう人びと	16
出品リスト	18
参考文献・図表出典	20

凡例

- 一本冊子は、大分県立埋蔵文化財センター令和7年度企画展「デジタル考古学Ⅱ ひとのかたち－出土品からみる人の造形－」(令和7年10月7日－12月14日)の解説資料集である。ただし解説の都合上、本冊子の構成と展示内容には一部異なる箇所がある。
- 一本展示は大分県立埋蔵文化財センターが主催し、下記の後援を得た。
大分合同新聞社、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、J:COM大分ケーブルテレコム、エフエム大分
- 一本冊子は大分県立埋蔵文化財センター職員の協力のもと、西貴史が編集を担当した。第4章中の装身具の組合せについては、森春奈(同センター)の監修を受けた。
- 一本冊子中の写真について、各機関から提供を受けたものは「提供」と記載した。その他は西が撮影を行った。

謝辞

企画展の開催にあたり、下記の機関から多大な協力を得た。記して感謝申し上げる。(順不同、敬称略)

文化庁、安城市教育委員会、宇佐市教育委員会、大分市教育委員会、大分県立中津南高等学校、(公財)大阪府文化財センター、大野城市地域創造部、春日市協働推進部、鹿屋市教育委員会、かみつけの里博物館、国東市教育委員会、熊本県立装飾古墳館、熊本博物館、熊本市文化市民局文化創造部文化財課、熊本県立御船高等学校、倉吉博物館、上毛町教育委員会、佐賀市地域振興部、桜井市教育委員会、新富町教育委員会、高崎市教育委員会、竹田市教育委員会、田原本町文化振興課、中津市教育委員会、豊後大野市資料館、別府大学附属博物館、益城町教育委員会、(公財)松山市立埋蔵文化財センター、山口県観光スポーツ文化部、(公財)山口県埋蔵文化財センター

はじめに

本企画展は、「なぜ人はひとのかたちをつくったのか」という問いを出発点とします。

先史時代の人びとは、暮らしのなかで「ひと」を表現し、さまざまなかたちを残しました。遺跡の発掘調査では、思いがけずそのような「ひとのかたち」に出会うことがあります。土偶や埴輪といった直接的な造形に加え、絵画土器に描かれた人物像、さらにアクセサリーのように身を飾る道具に至るまで——ひとの姿をした資料は実に多様です。

本企画展では、県内外の遺跡から出土した資料を中心に、その形態の変化や用途の広がりを紹介します。それぞれの遺物に表された「ひとのかたち」から、古代の人びとが自分や他者をどのように感じ取り、どんな想いを託したのかを探ります。

展示室では一部の資料にデジタル技術を取り入れ、細部や表情を拡大してご覧いただけます。ふだんは気づきにくい特徴に目を向けながら、「なぜ人はひとをかたどるのか」という根源的な問いに思いをめぐらせていただければ幸いです。

さらに、考古学的な知見を交えて時代や地域の特色を紹介することで、埋蔵文化財への理解を深めるとともに、新しい発見や古代の心象風景を想像するきっかけとなることを願います。

最後に、本企画展の開催にあたり、貴重な資料をご出品、ご提供いただいた皆さま、ならびに多大なご協力を賜った皆さまに、この場を借りて心より御礼申し上げます。

歴年代	時期区分	展示品と関連情報	おおいたの出来事
B.C.32000	旧石器時代	後期	
B.C.11000			
B.C.5000	縄文時代	草創期	
B.C.3500		早期	土器の使用が始まり、定住化がみられるようになる
B.C.2000		前期	気候の温暖化によって海面が上昇する(縄文海進)
B.C.1000		中期	土偶や石棒などがみられるようになる
B.C.300		後期	●おおいたの土偶たち ▶P.4
		晩期*	
A.D.1	弥生時代	前期	九州北部で水稲耕作が始まる
		中期	●分銅形土製品 ▶P.8
		後期	●秋永遺跡・人面付土器 ▶P.8 絵画土器 ▶P.12
300	古墳時代	前期	前方後円墳の築造が始まる
400		中期	人物埴輪など、古墳への形象埴輪樹立が盛んになる
500		後期	●築山古墳・盾持人埴輪 ▶P.10
600	飛鳥時代		●大在浜遺跡・人形土製品 ▶P.11
700		奈良時代	
800		平安時代	●仲島遺跡・人面墨書土器 ▶P.15 ●飯塚遺跡・木簡齋串 ▶P.15
1000	中世		
1200		鎌倉時代	
1400		南北朝時代	
1500		室町時代	
1600		戦国時代	
1800		安土桃山時代	●中世大友府内町跡・人形 ●府内城三の丸・人物線刻瓦
1800	近世	江戸時代	
1900	近代		

企画展の中心となる時期

・『発掘された日本列島2018』文化庁編2018を参考に作成。

人は「ひとのかたち」をどのように使うのか — 現代における機能と実例

(ラスコー洞窟の壁画)

- ① 媒介・祈願
 - 神社で厄を移すために紙人形を使う
 - 安全祈願のための人形
 - 祭礼等で神や精霊を媒介するための仮面

- ⑥ 娯楽
 - 子どものためのぬいぐるみ
 - 観賞用のフィギュア、イラスト

(世界各地で農耕が始まる)

- ② 記憶・顕彰
 - 偉人や歴史的人物を顕彰する銅像
 - 葬儀や仏壇に掲げられる写真

- ⑦ 識別・証拠
 - 社員証などの顔写真、証明写真
 - 卒業式の集合写真

- ③ 規範・標準
 - 非常口サイン、トイレ標識などのピクトグラム
 - 二宮金次郎などの像(子どもたちの手本)

- ⑧ 広報・商業
 - 販売促進のための広告ポスター
 - 店頭に置かれる創業者の人形
 - 着ぐるみ、ゆるキャラ

- ④ 自己表現
 - SNSアイコン／アバターとしての自画像
 - 似顔絵

- ⑨ 協働・使役
 - 人間の作業を支援するロボット
 - カスタマーサポートのAI

57 「漢委奴国王」金印

- ⑤ 教育・訓練
 - 人体を理解するための模型
 - 救命訓練のためのマネキン

*あくまで簡単な整理であり、さらに多くの「ひとのかたち」が存在する。

239 卑弥呼、魏へ使者を送る

展示をご覧いただくにあたり、まず対象とする時代について簡単に触れておきたい。表はおよそ30,000年前の旧石器時代から現代までを縦に並べたものである。

日本列島でもっとも古い「ひとのかたち」は旧石器時代後期に遡り、その一例として大分県岩戸遺跡から出土した岩偶が知られる。やがて縄文時代になると、土偶をはじめとする人の造形が盛んにつくられ、精神文化を象徴する資料が各地に残された。弥生時代から古墳時代にかけて、おおいだでは「ひとのかたち」が不在となるものの、全国各地で多様な人物造形が用いられるようになる。

展示では、遺跡から出土した資料を中心として、縄文から古代までの時期を対象とする。

538(552) 仏教公伝

604 聖徳太子の十七条憲法

672 壬申の乱

701 大宝律令の制定

712 古事記編纂

794 平安京へ遷都

1192 源頼朝、征夷大將軍に

1338 室町幕府の成立

1467 応仁の乱

1590 豊臣秀吉による全国統一

1603 徳川家康が江戸幕府を開く

1868 明治維新

なぜ人はひとのかたちを作り続けるのか

現代を生きる私たちの周囲には、銅像や写真、キャラクターやアバターなど、さまざまな「ひとのかたち」を表したものが存在する。上の図にある程度のひとのかたちとその機能を簡単に分類した。祈りや記憶の継承、社会の規範提示、自己表現、教育、娯楽、商業や協働など、その役割は多岐にわたり、しかも形態を横断して重なり合う。

生活スタイルの変化によって新しい姿が生まれる一方で、祈りやまつりの道具といった古代からの機能は今も残り続けている。過去と現代の違いと共通点を照らし出すことが、なぜ私たちが「ひとのかたち」を作り、使い続けるのかを考える上で重要な手がかりとなる。

いのるひと



2



1



3

形状をよく残した土偶

1,3 | 鞍ヶ田尾遺跡 竹田市教育委員会所蔵
2 | 石原貝塚 宇佐市教育委員会所蔵

いずれも体の各部位を欠損するが、比較的もとの形状がよくうかがえる。2の土偶は珍しく頭部まで復元できた例である。頭部の隅には赤く彩色の痕跡が残る。

縄文時代の人びとは、土で「ひとのかたち」をつくり、いのりや想いを託した。

土偶と呼ばれるこれらの造形は、完全な姿で見つかることは少なく、多くが破片として出土する。まっすぐ伸びた手足、ふくよかな体つき、壊れた姿で見つかるもの——。それらは単なる飾りではなく、いのりが込められたひとのかたちである。失われた身体の一部からでも、当時の人びとの精神性に迫ることができる。大分県内でも、数は限られるが各地の遺跡から土偶が見つかっており、こめられた意味を考える上で貴重な資料となっている。

土偶の三つのかたち

具象形土偶

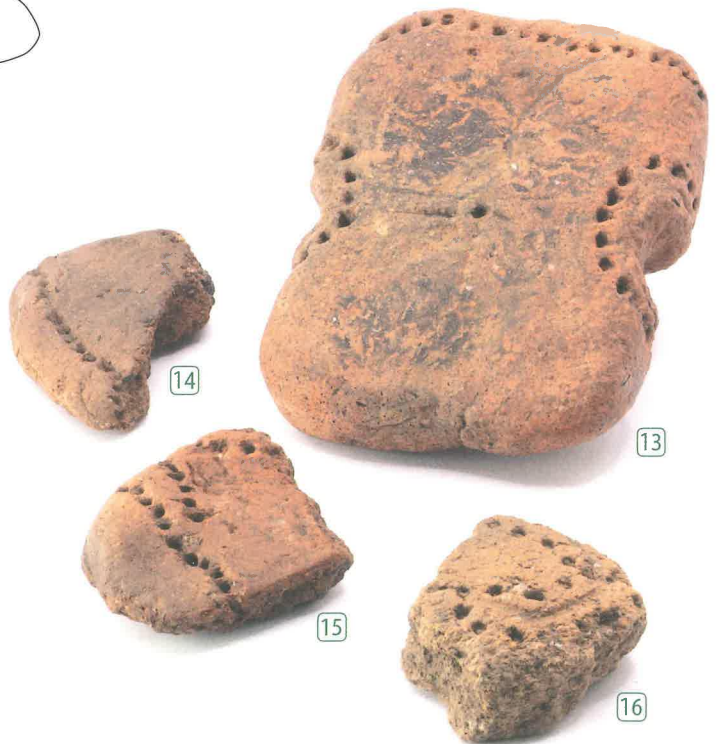
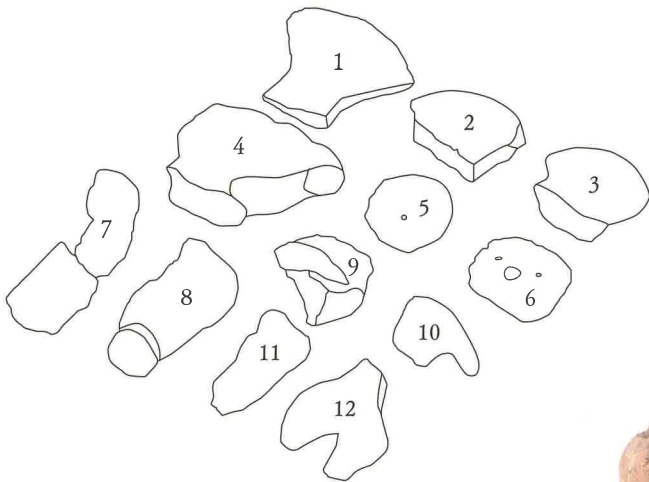
人の全身を写し取った像で、体の部位や姿勢が明確である。また、強調部位を直接読み取ることができる。

省略形土偶

分銅形とも呼ばれ西日本に多い。身体の要素を極端に省略し、祈りの焦点のみを抽出した記号的な表現である。

板状土偶

扁平で小型の造形。顔や胴体を記号化し、祈りの対象を簡略な形に置き換えている。



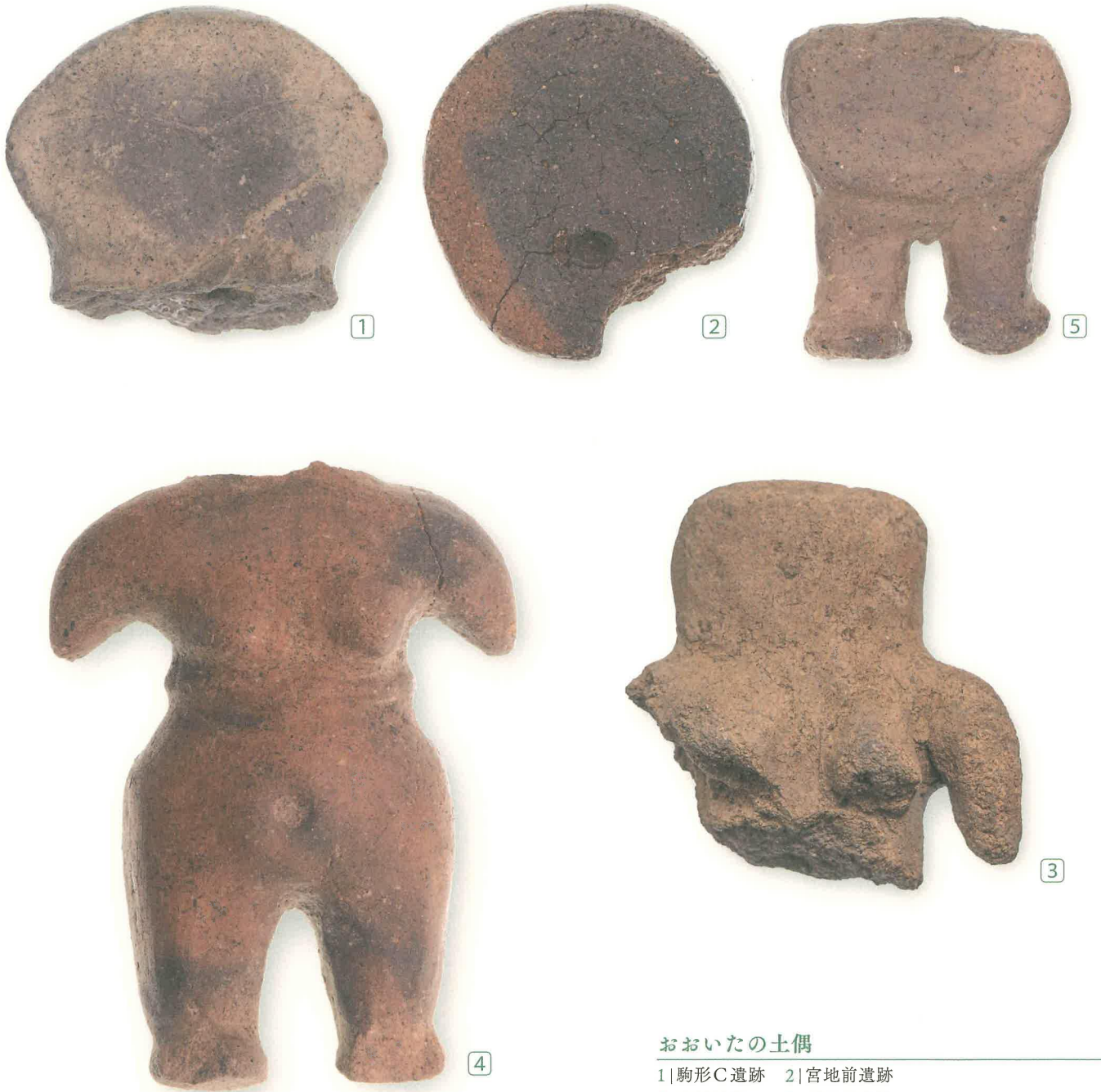
さまざまな土偶たち

1 | 横塚第2遺跡 2・6 | 古戸遺跡 4 | 三和教田遺跡
3・5・7~12 | 尾畑遺跡

1や2・6を除いて、いずれも具象形土偶の破片である。具象形土偶にも、各部位のつくりかたに共通点や差異が存在する。

13 | 高添遺跡*レプリカ、いずれも豊後大野市所蔵
14~16 | 光昌寺遺跡

いずれも分銅形土偶である。分銅形土偶の多くは細片となって出土するため、13の例のように完形で残る資料は貴重である。



おおいたの土偶

- 1|駒形C遺跡 2|宮地前遺跡
3|大勢遺跡 4|天神面遺跡
5|玖珠農業高校遺跡

* 1.2.5は別府大学附属博物館、
3は中津市教育委員会、
4は竹田市教育委員会所蔵

大分県から出土した土偶は、その多くが縄文時代後期から晩期に帰属する。遺跡から出土した土偶は、そのほとんどが破片であり、たとえ同じ遺跡内の資料を接合できたとしても、完全な形に復元されることはない。いのりの場で使用した際、意図的に破碎された可能性も考えられる。

右の表は、大分県から出土した土偶をまとめたものである。県内の多くの遺跡で出土している

が、とくに20点以上を出土した宇佐市尾畑遺跡が際立っている。出土数は少ないものの、豊後大野市や竹田市など内陸部でも確認されている点に注目したい。

この時期には、数は限られるものの、軽石でひとのかたちを模したとされる「岩偶」^{がんこ}も確認されている。

おおいの土偶一覧

遺跡名	所在地	時期	点数	出土部位					不明	板状・分銅形	岩偶
				頭部	胴部	腕部	脚部				
三和教田遺跡	日田市大字三和	後期末	3		○	○		○			
隈山遺跡	日田市石井	-	1					○			
牧原遺跡	日田市大字日高	後期～晩期	1				○				
鎌手遺跡	日田市西大山	後期後半	1		○		○				
玖珠農業高校遺跡	玖珠町帆足	-	1		○		○				
栃木原遺跡	玖珠郡九重町町田	-	1					○			
高畑遺跡	中津市高畑	後期	2		○	○					
槇遺跡	中津市大字加来	後期	1						○		
佐知遺跡	中津市三光佐知	後期	3	○			○		○		
大勢遺跡	中津市山国町宇曾	後期末～晩期	1		○						
古戸遺跡	中津市本耶馬溪町	後期～晩期	3	○					○		
尾畑遺跡	宇佐市大字山下	後期後半～晩期	27	○	○	○	○	○			
石原貝塚	宇佐市大字青森	後期後半	1	○	○	○					
(不明)	宇佐市山本	-	1					○			
陽弓遺跡	国東市国東町字横手	後期～晩期	4		○		○				
南石垣遺跡	別府市南石垣	-	1					○			
大分川河川敷4遺跡	大分市下郡	-	1		○	○					
横塚第2遺跡	大分市大字里	後期後半	1						○		
内河野遺跡	臼杵市野津町藤小野	後期	2	○			○				
真萱遺跡	豊後大野市犬飼町高津原	-	1							○	
高添遺跡	豊後大野市千歳町長峰	後期	1						○		
夏足原遺跡	豊後大野市大野町大字夏足	後期?	1				○				
中道遺跡	豊後大野市大野町後田	後期?	1				○				
光昌寺遺跡	豊後大野市大野町大字十時	後期	1+	○			○	○			
神原遺跡	豊後大野市大野町田代	後期後半～晩期	?					○			
駒形C遺跡	豊後大野市大野町中原	後期後半	1+	○							
宮地前遺跡	豊後大野市大野町片島	後期末	4	○		○	○	○	○		
一万田館跡	豊後大野市朝地町大字池田	後期	1	○							
大石遺跡	豊後大野市緒方町大字大石	後期末～晩期	2	○				○			
小原遺跡	豊後大野市小原	-	-					○			
野鹿洞穴	竹田市荻町南河内	-	1							○	
天神面遺跡	竹田市大字倉木	後期後半	1		○	○	○				
鞍ヶ田尾遺跡	竹田市大字片ヶ瀬	-	2		○		○				

・横澤2012を参照しつつ、その後の出土例などを補って作成した。

・出土数が判別できないものは、確認できる個体数に「+」として表記した。

・「出土部位」の塗りつぶしは、出土時に一体で出土した、もしくは接合したものがあつたことを示す。

まつりとひとのかたち





弥生のまつりとひとのかたち

- 1 |人面付土器 秋永遺跡 熊本県立御船高等学校所蔵
 2~4 |分銅形土製品 2:祝谷アイリ遺跡、3:久米高畑遺跡、4:松山大学構内遺跡
 松山市立埋蔵文化財センター所蔵
 5 |人面土製品 綾羅木郷台地遺跡 国所有、山口県保管[山口県指定文化財]

いずれも弥生時代の所産として位置づけられる資料である。1は人面表現が施された円筒形の容器である。顔や胴体には幾重もの弧線が描かれ、イレズミを表現した可能性が指摘される。2~4はそれぞれ大きさが異なるが、柔和な表情と眉・鼻の表現は共通する。5は頬に4~5条の弧線が確認でき、1と同じくイレズミを表したものと考えられる。

人びとはさまざまなまつりや儀礼の場で、「ひとのかたち」を特別な意味をもつ道具として用いた。

人面を刻んだ土製品や、ひとの顔をあしらった土器は、弥生時代のムラのまつりに供される道具であったと考えられる。

古墳時代には、当時の権力者の墓に立て並べられた埴輪はさまざまな意味が込められ、ひとのかたちを象るものはまつりの場を荘厳にした。また、古墳以外の場でも祭祀は行われ、海や川など水辺での行為の跡も確認されている。

これらは日常の道具とは異なる役割を担ったと考えられ、まつりの世界観をひとのすがたに投影する意味もあっただろう。



人物埴輪と古墳時代

古墳時代には、当時の権力者の墓である古墳の周囲に、土製の埴輪が立て並べられた。大半は土管状の円筒埴輪であるが、ひとや動物、建物や道具をかたどった形象埴輪が置かれる場合も多い。ひとをかたどった埴輪のうち、盾持人埴輪と呼ばれる埴輪がある。体の前面に盾を構え、被葬者を守る役目を持ったこの埴輪の豊かな表情に注目しよう。

盾持人埴輪

築山古墳 佐賀市所蔵[佐賀県重要文化財]

人物の顔にはイレズミと思われる線刻が施され、また、顔と盾の一部に赤い彩色が残る。頭頂部は大きく突出するがこれは冠状の帽子を表現したものと指摘される。



人形土製品・線刻円盤

最上段 | 人形土製品

下3段 | 線刻円盤

大在浜遺跡

大分県立埋蔵文化財センター所蔵

古墳以外のまつり

古墳時代には、古墳の外でもまつりが営まれた。大分市の大在浜遺跡は別府湾を臨む海辺に位置し、弥生時代から古墳時代にかけて墓域や祭祀の場として用いられていたと考えられる。工事中の発見で遺構の詳細な時期は決めがたいが、人形土製品と呼ばれる小さな土人形に加え、亀甲状の線刻円盤がまとまって出

土している。こうした人形と円盤の組み合わせは全国各地の古墳時代(一部奈良時代まで)の祭祀遺跡でも知られ、大在浜の事例もまた、古墳時代の祭祀のひとつに位置づけることができる。大分の沿岸では、このように海辺のまつりに「ひとのかたち」が用いられていたのである。

ひとをうつす



①



②

土器に描かれた人物

- 1 | 線刻絵画土器 名主原遺跡
鹿屋市教育委員会所蔵
- 2 | 人面文土器 亀塚遺跡
安城市教育委員会所蔵、提供
〔重要文化財〕

「ひとのかたち」は、造形されるだけでなく、描かれることによっても表された。土器への線刻による人物表現、ひとの顔を墨で記した墨書土器、さらには装飾古墳に描かれた人物像などが知られている。

また、遺跡から出土した仮面には、着用者へ他人を「うつす」意味が込められていたと考えられる。これらは現実の人びとの姿や行為を写しとりつつ、祭祀や死者の世界に関わる特別な意味を帯びていた。絵や記号として残された「ひと」の姿は、当時の人間観や社会観を知る手がかりとなる。



3

仮面のまつり

3・5 | 西岩田遺跡(1は出土状況)

大阪府文化財センター所蔵、提供

4 | 纏向遺跡

桜井市教育委員会所蔵、提供

どちらも3世紀前半、古墳時代の開始期を前後する時期のもものとされる。木製であり、目や口をくり抜いて、鼻はわずかに盛り上げる。どちらも木製品などが一緒に出土しており、祭祀行為に伴う道具の一つであったと考えられている。



4



5

絵画土器の世界

絵画土器はひとや動物などが描かれた土器のこと。弥生時代中頃から古墳時代にかけて、多くの絵画土器が見つかっている。中にはひとの形を描いたものもあり、当時の装いがうかがえる資料として貴重である。

2は人物を描いた絵画土器の代表例として知られるものである。壺の表面に大きく描かれた人物の顔には、瞳のない目に幾重もの弧線が重複する。

黥面(イレズミ)の表現として認識されている。

1は人間の全身が描かれた資料である。左手に長方形のものを、右手に長柄の道具を持っていることがわかる。この表現も多く見られるものであり、絵画土器のモチーフとして、左手には盾を、右手には戈などの武器が表されたと解釈されている。

絵画土器は大分県でも数例確認されているが、そのほとんどは抽象的な図像である。



腕を広げた人物像

鍋田27号横穴墓 熊本県立装飾古墳館提供[国史跡]
人物像のほかに、弓や矢を入れる容器、盾などが浮き彫りされている。

墓と祭祀にうつされたひとの姿

装飾古墳とは、古墳時代の墓(横穴式石室や横穴墓など)の壁面に、線刻や彩色でひとや動物、凶形を描いたものを指す。加工した石材や自然の岩肌を舞台に施された装飾の中には、ひとをモチーフとする例も見られる。それらは古墳時代の他界観や辟邪^{へきじや}の観念を示す重要な資料である。

その一例が熊本県鍋田27号横穴墓である。崖面を掘り抜いた墓の外壁には、弓具や盾などの武具とともに、大の字に手足を広げた人物像が刻まれている。これは墓に葬られた人物を守護

する意味を持っていたのだろうか。

やがて古墳時代が終わり、律令による国家統治が進むと、祭祀のあり方も変化する。奈良・平安時代の人面墨書土器はその象徴的な遺物で、奈良・京都を中心に出土する。九州の例は少ないが、福岡県仲島遺跡の資料が代表的である。さらに、大分県飯塚遺跡からは、文字を記した木簡にまじって、顔を描いた齋串^{いとし}(ひとがた・形代)が見つまっている。これらは祭祀行為や信仰に伴う道具と考えられている。



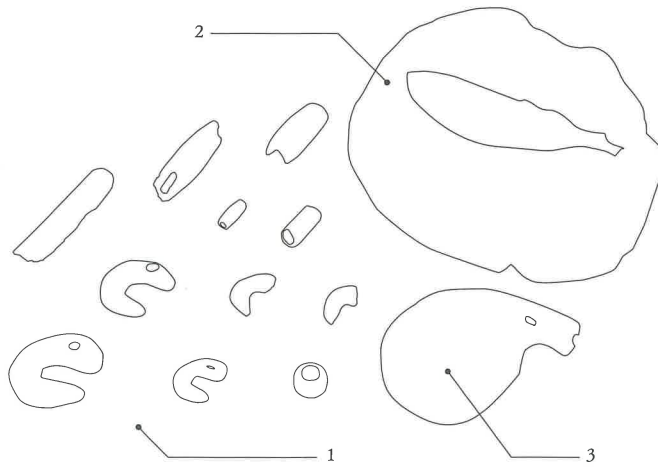
古代の祭祀とひとのかお

1~3 | 人面墨書土器 仲島遺跡 大野城心のふるさと館所蔵[大野城市指定文化財]

4 | 木筒斎串(人形、形代) 飯塚遺跡 国東市歴史体験学習館所蔵[大分県指定文化財]*画像はレプリカ

1・2はいずれもどこかユーモラスな表情を持つ。3は目を大きく見開き、緊張感のある顔立ちである。4は鼻や口の表現は控えめだが、細い目や眉が墨線で強調されている。

よそおう人びと



縄文時代の装身具

- 1 | 勾玉・管玉 大石遺跡
- 2 | 貝輪(サルボオ製) 粉洞穴
- 3 | 珧状耳飾 野鹿洞穴

* いずれも別府大学附属博物館所蔵

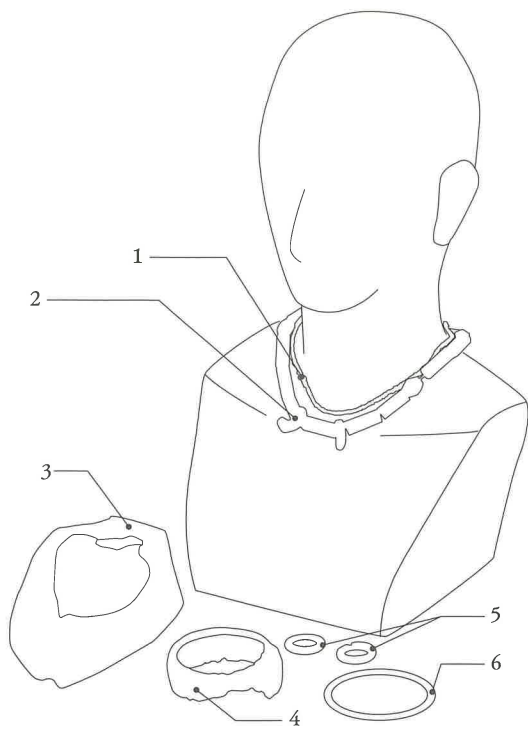
首飾りや耳飾り、腕飾りとして用いられたとされる資料である。いずれもバラバラで出土したため、当時の人びとがどのように着装したかは判然としないが、墓からの出土例や民族例をもとに復元がなされている。

色とりどりのアクセサリ

身を飾ることもまた、「ひと」をかたちづくる表現といえる。古代の人びとは、腕輪や首飾り、耳飾りなど、多種多様な装身具を身につけた。それは単なる装飾ではなく、ときには身分や立場を示し、ときにはまじないの力をもた

らすものと考えられていた。石や貝、ガラスといった素材は遠方からもたらされ、地域を超えた交流を物語っている。

よそおうことは、自身の内面を外に示す行為であり、自身の存在を社会に認知させる。



古墳時代後期の装身具〈一例〉

- 1 | 首飾り(ガラス小玉) 飛山横穴墓群 4 | 貝製腕輪(イモガイ製) 佐寺横穴墓群
 2 | 首飾り(勾玉・管玉) 上ノ原横穴墓群 5 | 耳飾り(耳環) 飛山横穴墓群
 3 | 貝製腕輪(ゴホウラ製) 長湯横穴墓群 6 | 腕輪(青銅製) 上ノ原横穴墓群 ※いずれも大分県立埋蔵文化財センター所蔵

いずれも古墳時代の後期、横穴墓と呼ばれる墓から出土した資料である。豪華絢爛な冠や指輪はみられないが、さまざまな色の玉で身を飾り、シンプルな装飾をしていたことがわかる。出土時の状況によっては被葬者がどのように着装して葬られたかが残っている例もあり、アクセサリーはとくに頭部や腕周りに集中することがわかっている。

出品リスト

プロローグ

遺跡名	ふりがな	出土地・採集地	場所	所蔵先	時代	資料	
						形態	員数 指定
岩偶	がんぐう	岩戸遺跡	大分県豊後大野市	大分県立埋蔵文化財センター	旧石器時代	レプリカ	1
土偶	とぐう	古戸遺跡	大分県中津市	大分県立埋蔵文化財センター	縄文時代	実物	1
土偶	とぐう	尾畑遺跡	大分県宇佐市	大分県立埋蔵文化財センター	縄文時代	実物	2
土偶	とぐう	法垣遺跡	大分県中津市	中津市教育委員会	縄文時代	写真	1 市指定
人面形土製品	じんめんがたとせいひん	法垣遺跡	大分県中津市	中津市教育委員会	縄文時代	写真	1 市指定
土偶	とぐう	東友枝曾根遺跡	福岡県上毛町	上毛町教育委員会	縄文時代	写真	1
人物埴輪	じんぶつはにわ	虚空蔵塚古墳	熊本県玉名市	熊本県立装飾古墳館	古墳時代	実物	1
人形土製品	ひとがたとせいひん	古国府遺跡群	大分県大分市	大分県立埋蔵文化財センター	古墳時代	実物	1
斎串	いぐし	飯塚遺跡	大分県国東市	国東市歴史体験学習館	奈良時代	レプリカ	1 県指定
人面墨書土器	じんめんぼくしょとき	仲島遺跡	福岡県大野城市	大野城市教育委員会	奈良時代	実物	2 市指定
土製仏像	とせいぶつぞう	中世大友府内町跡	大分県大分市	大分県立埋蔵文化財センター	安土桃山時代	実物	1
鬼瓦	おにがわら	中世大友府内町跡	大分県大分市	大分県立埋蔵文化財センター	安土桃山時代	実物	1 重要文化財
線刻のある瓦	せんこくのあるがわら	府内城・城下町	大分県大分市	大分県立埋蔵文化財センター	江戸時代	実物	1
博多人形	はかたにんぎょう	府内城三の丸跡	大分県大分市	大分県立埋蔵文化財センター	江戸時代	実物	1
現代の人形	げんだいのにんぎょう			個人蔵	現代	実物	4

第1章 いのるひと

遺跡名	ふりがな	出土地・採集地	場所	所蔵先	時代	資料	
						形態	員数 指定
土偶	とぐう	高畑遺跡	大分県中津市	大分県立中津南高等学校	縄文時代	実物	2 市指定
土偶	とぐう	大勢遺跡	大分県中津市	中津市教育委員会	縄文時代	実物	1
土偶	とぐう	尾畑遺跡	大分県宇佐市	大分県立埋蔵文化財センター	縄文時代	実物	5
土偶	とぐう	石原貝塚	大分県宇佐市	宇佐市教育委員会	縄文時代	実物	1
土偶	とぐう	陽弓遺跡	大分県国東市	国東市教育委員会	縄文時代	実物	1
土偶	とぐう	大分川河川敷4遺跡	大分県大分市	大分市教育委員会	縄文時代	実物	1
土偶	とぐう	横塚第2遺跡	大分県大分市	大分県立埋蔵文化財センター	縄文時代	実物	1
土偶	とぐう	佐知遺跡	大分県中津市	大分県立埋蔵文化財センター	縄文時代	実物	3
土偶	とぐう	古戸遺跡	大分県中津市	大分県立埋蔵文化財センター	縄文時代	実物	2
土偶	とぐう	高添遺跡	大分県豊後大野市	豊後大野市教育委員会	縄文時代	レプリカ	1
土偶	とぐう	光昌寺遺跡	大分県豊後大野市	豊後大野市教育委員会	縄文時代	実物	1
土偶	とぐう	駒方C遺跡	大分県豊後大野市	別府大学附属博物館	縄文時代	実物	1
土偶	とぐう	宮地前遺跡	大分県豊後大野市	豊後大野市教育委員会	縄文時代	実物	1
土偶	とぐう	宮地前遺跡	大分県豊後大野市	別府大学附属博物館	縄文時代	実物	1
土偶	とぐう	大石遺跡	大分県豊後大野市	別府大学附属博物館	縄文時代	実物	1
土偶	とぐう	夏足原遺跡	大分県豊後大野市	豊後大野市教育委員会	縄文時代	実物	1
土偶	とぐう	中道遺跡	大分県豊後大野市	豊後大野市教育委員会	縄文時代	実物	1
土偶	とぐう	天神面遺跡	大分県竹田市	竹田市教育委員会	縄文時代	実物	1
土偶	とぐう	鞍ヶ田尾遺跡	大分県竹田市	竹田市教育委員会	縄文時代	実物	2
土偶	とぐう	三和教田遺跡	大分県日田市	大分県立埋蔵文化財センター	縄文時代	実物	1
岩偶	がんぐう	野鹿洞穴	大分県竹田市	別府大学附属博物館	縄文時代	実物	1

第2章 まつりとひとのかたち

遺跡名	ふりがな	出土地・採集地	場所	所蔵先	時代	資料 形態	員数	指定
分銅形土製品	ふんどうがたとせいひん	祝谷六丁場遺跡	愛媛県松山市	松山市埋蔵文化財センター	弥生時代	実物	1	
分銅形土製品	ふんどうがたとせいひん	祝谷アイリ遺跡	愛媛県松山市	松山市埋蔵文化財センター	弥生時代	実物	1	
分銅形土製品	ふんどうがたとせいひん	久米高畑遺跡	愛媛県松山市	松山市埋蔵文化財センター	弥生時代	実物	2	
分銅形土製品	ふんどうがたとせいひん	松山大学構内遺跡	愛媛県松山市	松山市埋蔵文化財センター	弥生時代	実物	1	
分銅形土製品	ふんどうがたとせいひん	須玖岡本遺跡	福岡県春日市	春日市	弥生時代	実物	1	
人面付土器	じんめんつきどき	秋永遺跡	熊本県益城町	熊本県立御船高等学校	弥生時代	実物	1	
人面土製品	じんめんとせいひん	綾羅木郷台地遺跡	山口県下関市	国(山口県保管)	弥生時代	実物	1	県指定
人形土製品	にんぎょうとせいひん	大在浜遺跡	大分県大分市	大分県立埋蔵文化財センター	古墳時代	実物	5	
線刻円盤	せんこくえんばん	大在浜遺跡	大分県大分市	大分県立埋蔵文化財センター	古墳時代	実物	10	
子持勾玉	こもちまがたま	古国府遺跡群	大分県大分市	大分県立埋蔵文化財センター	7世紀代	実物	1	
人形土製品	にんぎょうとせいひん	谷畑遺跡	鳥取県倉吉市	倉吉博物館	古墳時代	写真	7	
人形土製品	にんぎょうとせいひん	下白水大塚古墳	福岡県春日市	春日市	古墳時代	実物	6	
線刻円盤	せんこくえんばん	下白水大塚古墳	福岡県春日市	春日市	古墳時代	実物	1	
鳥舟付器台	とりふねつききだい	一ノ瀬2号墳	大分県国東市	大分県立埋蔵文化財センター	古墳時代	実物	1	県指定
盾持人埴輪	たてもちひとにはにわ	築山古墳	佐賀県佐賀市	佐賀市	古墳時代	実物	1	市指定
盾持人埴輪	たてもちひとにはにわ	茅原大墓古墳	奈良県桜井市	桜井市教育委員会	古墳時代	写真	1	
人物埴輪(頭部)	じんぶつはにわ	山名原口2遺跡	群馬県高崎市	高崎市教育委員会	古墳時代	写真	1	

第3章 ひとをうつす

遺跡名	ふりがな	出土地・採集地	場所	所蔵先	時代	資料 形態	員数	指定
土製仮面	どせいかめん	仏並遺跡	大阪府和泉市	大阪府文化財センター	縄文時代	写真	1	重要文化財
貝製仮面	かいせいかめん	阿高貝塚	熊本県熊本市	熊本博物館	縄文時代	写真	1	
木製仮面	もくせいかめん	纏向遺跡	奈良県桜井市	桜井市教育委員会	古墳時代	写真	2	奈良県 有形文化財
木製仮面	もくせいかめん	西岩田遺跡	大阪府東大阪市	大阪府文化財センター	古墳時代	写真	2	
絵画土器	かいがどき	亀塚遺跡	愛知県安城市	安城市歴史博物館	弥生時代	写真	1	重要文化財
絵画土器	かいがどき	名主原遺跡	鹿児島県鹿屋市	鹿屋市教育委員会	弥生時代	実物	1	
絵画土器	かいがどき	神水遺跡	熊本県熊本市	熊本市教育委員会	弥生時代	実物	1	
装飾古墳	そうしょくこふん	鍋田横穴27号	熊本県山鹿市	熊本県立装飾古墳館	古墳時代	写真	1	国史跡

第4章 よそおう人びと

遺跡名	ふりがな	出土地・採集地	場所	所蔵先	時代	資料 形態	員数	指定
玦状耳飾	けつじょうみみかざり	野鹿洞穴	大分県竹田市	別府大学附属博物館	縄文時代	実物	1	
玦状耳飾	けつじょうみみかざり	かわじ池遺跡	大分県由布市	大分県立埋蔵文化財センター	縄文時代	実物	1	
玉類	たまるい	大石遺跡	大分県豊後大野市	別府大学附属博物館	縄文時代	実物	1	
貝輪	かいわ	枅洞穴	大分県中津市	別府大学附属博物館	縄文時代	実物	1	
玉類	たまるい	大在浜遺跡	大分県大分市	大分県立埋蔵文化財センター	弥生時代	実物	1	
貝輪	かいわ	佐寺横穴墓群	大分県日田市	大分県立埋蔵文化財センター	古墳時代	実物	1	
貝輪	かいわ	長湯7号墓	大分県竹田市	大分県立埋蔵文化財センター	古墳時代	実物	1	県指定
銅釧	どうくしろ	上ノ原横穴墓群	大分県中津市	大分県立埋蔵文化財センター	古墳時代	実物	1	
首飾り	くびかざり	上ノ原横穴墓群	大分県中津市	大分県立埋蔵文化財センター	古墳時代	実物	1	
首飾り	くびかざり	飛山横穴墓群	大分県大分市	大分県立埋蔵文化財センター	古墳時代	実物	1	
貝製垂飾	かいせいすいしよく	長湯7号墓	大分県竹田市	大分県立埋蔵文化財センター	古墳時代	実物	1	県指定
耳環	じかん	飛山横穴墓群	大分県大分市	大分県立埋蔵文化財センター	古墳時代	実物	1	
勾玉	まがたま	瀬戸1号墓	大分県玖珠町	大分県立埋蔵文化財センター	古墳時代	実物	1	
腕輪形石製品	うでわがたせきせいひん	野間3号墳	大分県大分市	大分市教育委員会	古墳時代	実物	1	

参考・引用文献

[図書]

- 金子裕之 1996『No.360まじないの世界Ⅰ』日本の美術5 至文堂
河野哲也ほか編 2021『顔身体学ハンドブック』東京大学出版会
佐原 真 1997『魏志倭人伝の考古学』歴博ブックレット1 歴史民俗博物館振興会
佐原 真・春成秀爾 1997『原始絵画』歴史発掘5 講談社
設楽博己 2021『顔の考古学－異形の世界』歴史文化ライブラリー514 吉川弘文館
露木 宏編2008『日本装身具史－ジュエリーとアクセサリーの歩み』美術出版社
町田 章 1997『No.371古墳時代の装身具』日本の美術4 至文堂
松本直子 2005『縄文のムラと社会』岩波書店

[論文・個別報告]

- 緒方 勉 1982「益城町秋永遺跡出土の容器形土偶について」『肥後考古』2 肥後考古学会
佐原 真 2002「総論－お面の考古学」『仮面－そのパワーとメッセージ』里文出版
設楽博己 1999「黥面土偶から黥面絵画へ」『国立歴史民俗博物館研究報告』80 国立歴史民俗博物館
設楽博己 1990「線刻人面土器とその周辺」『国立歴史民俗博物館研究報告』25 国立歴史民俗博物館
高橋紀衣 2024「日本古代の人面墨書土器について」『Artes Liberales』114 岩手大学人文社会科学部
富田紘一 2004「中九州における土偶の二様式－具象形土偶と省略形土偶・壊されない土偶の存在」『肥後考古』12 肥後考古学会
春成秀爾 1991「絵画から記号へ－弥生時代における農耕儀礼の盛衰」『国立歴史民俗博物館研究報告』35 国立歴史民俗博物館
林 弘幸 2022「盾持形埴輪」『埴輪の分類と編年』埴輪検討会
松本直子 2008「男女関係の変化とその背景」『弥生時代の考古学』7 同成社
横澤 慈 2012「大分県における縄文時代精神文化の概要」『縄文時代における九州の精神文化』九州縄文研究会・南九州縄文研究会

[図録]

- 大阪府立弥生文化博物館 2010『MASK－仮面の考古学』大阪府立弥生文化博物館図録43
倉吉博物館 1997『まつりの造形－古代形代の世界』
松山市考古館 1992『分銅形土製品の謎－西日本における弥生人の顔と精神文化』
宮崎県立西都原考古博物館 2024『「土偶の美」と「縄文の美」－東北日本と九州－』

画像・図表出典

[はじめに]

表1:作成

図1:作成

[第1章]

写真:いずれも各機関所蔵資料を編者撮影。

表2:作成

[第2章]

10p写真:佐賀市生活振興部文化財課提供

その他写真:いずれも各機関所蔵資料を編者撮影。

[第3章]

12p:(西和田遺跡)大阪府文化財センター提供、(纏向遺跡)桜井市教育委員会提供

13p:安城市教育委員会提供

14p:熊本県立装飾古墳館提供

その他写真:いずれも各機関所蔵資料を編者撮影

[第4章]

写真:いずれも各機関所蔵資料を編者撮影

解説資料集
令和7年度企画展 デジタル考古学Ⅱ

ひとのかたち

—出土品からみる人の造形—

発行日
令和7年10月7日

編集・発行
大分県立埋蔵文化財センター
〒870-0152 大分県大分市牧緑町1-61
TEL:097-552-0077

デザイン
井上 雅史

印刷
株式会社エポックアート

